

---

# Sword Hunt

順平

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Sword Hunt

### 【Nコード】

N6382K

### 【作者名】

順平

### 【あらすじ】

一人の青年が、運命に踊らされるように、歯車が動き出した。「力」と「心」の限り、その青年は戦い続けるのか……

## 一期一会（前書き）

一人の青年を主人公に、「運命」という名の歯車が動き出したような作品になっています。

読者なりの創造力でお読み下さい。

## 一期一会

俺は公園の中でジョギングをしていた。毎晩、夜にジョギングをするのが日課だった。

（風が気持ちいい）

あの日も、変わりなく走っていた。ただ、その日はいつもと違った。

「キヤーツ!!」

女の人が、悲鳴をあげていた!?

俺は、恐る恐る、木の陰から見た。喧嘩が強いわけではなかったが、興味半分で覗き込んだ。

腕にタトウーを入れたスキンヘッドの人が、女の人を掴まえて引つ張っていた。俺は足が竦み、逃げることはおろか、その場から動けないでいた。

（あれ?）

その女の人は、高校の時の同級生だった。

「誰か、助けてー!?!」

「五月蠅い!!! 俺に、逆らうんじゃない!?!」

俺は、勇気を出して声を絞り出した。

「やめろ!?!」

「誰だ、貴様!?!」

「その子を、離せ!?!」

「てめえ、シバかれないのか!?!」

俺は怖くて仕方なかったが、見てみぬ振りをするほど弱くはなかったようだ。俺はその男に体当たりをして、

「逃げる!?!」

女の子は、俺を横目にその場から逃げ出した。

「てめえ!?!」

俺は、腹を蹴られ、顔を殴られ、倒れた。頭がクラクラし、意識も朦朧もろうろうとしていた。

「つたく、せつかくの玩具を!?!」

男は、とても怒っていた。

「てめえ、ぶつ殺してやる!?!」

俺は、さっきまでの勇気もなく、怖くて震えていた。

「!?!」男の背中が光ったと思ったら、刀みたいなものを手にとった。

「えっ!?!」

運命の歯車が動き出した…

「てめえ、切り刻んでやる!?!」

俺は殺されると思った。

(!?!)

誰かが、話かけてくる。怒り狂った男の声ではない。

「力が欲しいか?」

周りに、俺たち以外誰もおらず、心に直接語りかけているようだった。

「力が欲しいか!?!」

刀を持った男は、今にも斬りかかろうとしていた。

「欲しい!!! 力が欲しい!?!」

その瞬間、俺の心からどす黒い何か体が伝い外に出た。斬りかかろうとした男は、何かにはねのけられたように、後方へ飛ばされた。

「まさか！？ お前もか？？」どす黒い何かが、語りかけてきた。

「この力が、欲しいか？」

「欲しい！！」

「ならば、誓え！！」

「何を！？」

「覚悟だ！！」

「覚悟??」

「この忌まわしき力を持つ覚悟だ！！」

俺は、どういう意味か分からなかったが、この場を乗り切るためには、力が必要だった。

「俺は、俺のために力を使う！！」

どす黒い何かが笑ったような気がした。

その瞬間、俺の腰が光り一本の刀が姿を顕した。

俺は、さっきまでの恐怖がなく、高揚感にも似た感覚を持ち始めていた。

「てめえもか！？」

男は、刀を構え不気味に笑っていた。

俺は刀を抜き、刀身を眺めた。それは、黒く透明で澄んだ色をしていて。そして、俺も不適な笑みを浮かべていた。

刀が語りかけてきているような、気がした。

（斬り殺せ！！）

俺は身構え、言葉とともに斬りかかっていた。無我夢中で…

俺は男と刀を交え、斬り殺した。

初めて人を殺したが、満足感と飢えにも似た感覚が俺の心に残った。刀が、

（どくんっ）

何かを飲み込んだ感じがした。

鞘に収めると光とともに消えていった。男の刀も死んだと同時に、消えていた。

俺は、男の死体を見下ろし、少し怖くなり、その場からにげて家に帰った。

## 一期一会（後書き）

初投稿なので、とりあえず感想をお待ちしております。

次話もありますが、読者の意見を聞きながら、次を考えたいと思っています。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6382k/>

---

Sword Hunt

2010年10月15日22時38分発行